

フランス語の接続法とポリフォニー

2021年4月17日

日本フランス語学会第334回例会

渡邊淳也 (東京大学)・佐多明理 (東京大学大学院)

本発表では、フランス語の接続法の機能の理解に、ポリフォニー (polyphonie) の概念が有効であることを示すとともに、廣瀬 (2016) (2017) で提唱されている「言語使用の三層モデル」をもちいた分析が可能であることを示す。

接続法のポリフォニック分析は、Nølke (1993) で本格的に提唱された。その分析によると、接続法は「内的ポリフォニー」(poliphonie interne)、すなわち、「話者としての話者」(locuteur en tant que tel) と「個人としての話者」(locuteur en tant qu'individu) のあいだのポリフォニーをあらわす。具体的には、つぎの例文に関して、

(1) De là vient que Daudet n'a pas fait école ; de là vient aussi qu'il **plaise** à tant de lecteurs différents.

(Nølke 1993 : 199)

つぎのように言っている。

« [...] le premier énoncé sert à expliquer un fait présenté comme déjà connu par l'allocutaire, alors que le locuteur profite de la situation pour présenter dans le deuxième énoncé un autre fait qui s'explique par la même raison. »

(*ibidem* : 200)

本発表ではこの分析に異議をとらえ、むしろ既知の内容 (前提、旧情報) を接続法であらわし、未知の内容 (主張、新情報) を直説法であらわすと主張する。

また、Nølke (1993) の「内的ポリフォニー」説だけでは説明できない接続法の例が多く存在することを指摘し、フランス語の接続法は、内的ポリフォニー、または外的ポリフォニー (話者と他者のあいだのポリフォニー) のいずれかを標示するという仮説を保持する。たとえば、つぎの (3) では、外的ポリフォニーが標示されていると考えざるを得ない。すなわち、キリスト教徒の共同体で共有されている「三位一体説」に外的に言及しているのである。

(2) Croyez-vous que Dieu **est** Père, Fils et Esprit ?

(Soutet 2000 : 139)

(3) Croyez-vous que Dieu **soit** Père, Fils et Esprit ?

(*idem*)

言語使用の三層モデルに関する帰結としては、接続法は一般的に、同モデルでいう「事態把握層」と「事態報告層」とのあいだの (フランス語としては例外的な) 分離・対立をあらわすということになる。内的ポリフォニーの事例においては、同モデルでいう「私的自己」と「公的自己」のあいだの分裂ないし対立を、そして外的ポリフォニーの事例においては、「話者」と「他者」のあいだの懸隔が標示されている。

要旨での引用文献

Nølke, Henning (1993) *Le regard du locuteur*, Kimé, Paris.

廣瀬幸生 (2016) 「主観性と言語使用の三層モデル」中村芳久・上原聡編『ラネカーの (間) 主観性とその展開』333-355, 開拓社, 東京.

廣瀬幸生 (2017) 「自分の言語学—言語使用の三層モデルに向けて—」廣瀬幸生・島田雅晴・和田尚明・金谷優・長野明子編『三層モデルでみえてくる言語の機能としくみ』2-24, 開拓社, 東京.

Soutet, Olivier (2000) *Le subjonctif en français*, Ophrys, Paris.